努力賞
（子どもの部）

にがてと好きの大切さ

第三日暮里小学校　五年
海老原　理佳

柳田先生こんにちは。とつぜんですが柳田先生の好きなこと、にがてなことはなんですか。わたしは「すきなことにがてなこと」を読んで、にがてなことについての考えが変わりました。私は「にがてなこと」というのは今まで、なくしてとくいなことにかえなければいけないと思っていました。でも、この本を読んでこの考えがかわりました。なぜなら、主人公の「ぼく」は、スポーツが好きだけど、みんなの前で話すのがにがてでも、話すのが好きな子に手伝ってもらったらできていたのを見て、にがてなことは、なくさなければいけないではなく、みんなでカバーすればいいと思ったからです。

さらに私は好き、にがてでみんながつながると思いました。なぜかというと、好きなことがあって、にがてなことがあって、その人のにがてなことが好きなことな人がカバーして、というのをどんどんしていくとみんながつながることができると思ったからです。

今私はキンボールというスポーツの大会にむけて、練習をがんばっています。そのときに、シュートがとくいな人、カバーがとくいな人がいます。そのときはみんなで助けあっていきたいです。

この本は、協力の大切さがよく分かるので読んでみてください。